

## 労働災害防止対策への提言(人材を育てる)

太平ビルサービス(株)札幌支店 柿本花枝

### 【人材を育てる】

人はなぜ頑張れるのでしょうか。そして元気の出る企業と時代を共にどう向き合っているのか私はこの事をいつも考えて来ました。元気の出る企業は初めからすばらしいと思われる人材が集るわけでもないと思う。けれども育て方によってはすごい戦力になるのではないのでしょうか。失敗を生じて頑張る人、身体を張って企業の為に頑張れる人が必要で人に信頼される、信用もされ期待されるから「頑張れる」と云う事です。前天野所長がメイク室で「能力に応じて」と云う言葉を想い出し、では能力とは？ 私はやる気、やる力の事従って「やる気」の違いによって能力に差が出て来ると思いました。更に「やる力」は「やる気」の差によって大きな違いを生じると思う。又、人の上に立つリーダーの方は接し方によって相手を生かしてもダメにもしてしまうと思いました。言葉一つで心豊かにもなれば心に深い傷もつくでしょう。それぞれの性格に合せた注意の仕方の良い仕事出来る様な方向づけも必要と思えます。

### 【仕事に楽しさを】

災害防止対策として又考えられる事は、仕事は面白く楽しいと思って働く事のできる様、心づくりが必要かとも思えます。いやな事、腹がたつての仕事は決して仕上りは良好とは云えませんし何かミスを生じるものです。緊張感の中にも心豊に「楽しい」と思って働く事で満足の出来る仕事ができますし、仕事を趣味として働く事のすばらしさを味う事がで

きます。災害防止は働く者同志がお互に助け合励まし合、楽しい良い空気の中で働く事によって怪我の無い楽しい職場づくりを心がけるべきではないのでしょうか。楽しい職場はみんな生き生きしてます。能動的主体的に職場で人生を過して仕事を趣味にした時、本当の仕事の楽しさ面白さを覚えるでしょう。すると、どんどん前向に物事を考えられる様になり仕事が楽しくなれば災害防止につながるのではないかと思います。家庭におかれても、陽気で明るい家族からは職場でも健全な仕事出来るものと私は確信致しております。

### 【仕事を通して学べた事】

仕事を通して社会に貢献できる、人様のお役に立てる、喜んで頂ける、こんな素晴らしい事は「仕事」と云う核があったからこそ広く学ぶ事が出来たと思えます。自分を磨く事は単に生活の糧を得る為に仕事をしている、金儲の為にだけ「仕事があるんだ」と云う様な考えは寂しいし本当の幸な感じは出て来ないと思う。仕事は汗を流し身体を動かした後心の良さ、お風呂の中で健康な身体に育ててくれた今は亡き両親を思い出し「喜ぶ心悟の良い人になりなされや」と教えてくれた両親に見守られて、今日一日も無事過した喜びを報告参拝し五体満足で働ける喜びに感謝を込めて、又自分をより磨き続け一層注意を怠る事のない様心がけて頑張り若い人に仕事は「面白い」、「楽しいよ」とやる気を引き出し教えたいと思って居ます。

# 労 災 防 止 対 策 へ の 提 言

中央ビルメンテナンス㈱ 樋 郡 薫

労働災害防止について、相当以前よりいろいろな対策が打出され練られているにもかかわらず、一向に労働災害が減るといった感じが見受けられません。危険予知活動や今までの死亡災害事例、ヒヤリハット体験などを取り上げ、各職場において毎朝そして事ある毎に安全教育をしつこいぐらい徹底して実施しているのが現状でしょう。

私が思うには、各個人またはそれを取り巻く作業単位グループに対する安全教育は十分に浸透していて、どんな危険が潜在しているのか皆判っていると思います。

しかし、企業全体から見ると利益を追求するあまり、従業員の安全に関することは二の次になっているような気がします。十数年続いている不況下のなか、コスト削減が強く求められ、人件費・人員の合理化、設備投資の削減などが実施されました。

このため、過度の人員削減が響き、一人当たりの作業量の増大が顕著となっています。作業時間の増加、十分な休息・準備が出来ないまま次の作業への移行となり、結果として、労災の起こる要因になっているところ です。

具体的には、安全教育などで周知していることは危険防止上よく判っているのですが、時間短縮のためついリスクの高い方法を取ってしまうこともあります。また、人員配分の適正化が図れないため、就業時間の慢性的な

延長や休日の取得が出来ない状況もあります。従って、従業員の過労による健康上に関する ことから、人間関係にまで至ってこのような問題が現実的に取りざたされております。

設備面においては、機械類の更新、消耗部品の交換はなるべくせず、使えるだけ使っているため、当然安全装置がはたらいて使用できなくなることもあります。更新や部品調達がなかなかないので、安全装置を切ったり、取り外されたりしている事もあるのです。

さてこのような中において、事故が発生したとき、作業員の不注意によるもの、または勝手に改造したためという報告でよいのでしょうか。特に重大死亡事故になった場合、会社全体の管理、経営責任まで問いただされ存続の危機に陥るのではないかと思います。

管理体制、責任の明確化、環境対応などについては、ISOで世界基準があり、それなりの成果が挙げられています。しかし、安全に関する事、例えばそれぞれの企業において仕事量に見合った人員体制の確保、休養取得の計画的実行、後継者育成のための教育などの基準という面が欠けている気がします。

真にゆとりのある、快適な職場作りが安全の土台であり、労災ゼロへの大きな一歩だと思います。そのためにもビルメンテナンス業界全体が、それに向けた対応をしなければいけない時期に来ているのではないのでしょうか。

# 通 勤 途 上

(株)ベルックス 神 田 克 己

私が、ベルックスに入社して1年と3か月になります。現在、職場まではマイカーで通勤していますが、片道約20分かかります。私が住んでいる福島から松前町までは、海岸道路を進行します。北海道最南端の地「白神岬」を通過して松前町に入ります。4月から10月頃までは波もおだやかで、車窓から見える海はまさに絶景です。朝の一時、この美しい風景を眺め「さあ、今日も一日頑張るぞ!」という気持ちになります。

その風景も、冬期間は一変します。荒々しい海に沿って走る道路が、激しい暴風雪に見舞われることも少なくありません。毎日のことですので、私は自分なりの「安全運転」を見つけながら通勤しています。ところが、ドライバーの中には、私の車の後にぴったりと付き、飛沫を被りながらワイパーをフル回転させて「ここは俺の道路だ。前を空けろ!」と言わんばかりに煽ります。癩に触るときもあります。

“事故を起こしてからでは遅い!” 私はそういった時こそ気持ちを落ち着け、互助の精神で道を空けます。それにしても、毎日のように報道される悲惨な交通事故、決して他人事ではすまされません。

現在の交通事情をみると、信号機、横断歩道、歩道橋、歩行者保護のためのガードレール等、道路整備はかなり進んでいます。またシートベルトやエアバッグ、ABS等、車自体の安全対策も効果を上げています。更には

交通事故撲滅のための取組が、様々な形で展開されています。減少して当たり前のはずの交通事故が、なぜ毎日のように起こり、悲劇が繰り返されるのでしょうか。

私は、最も肝心なのは“運転者の意識”だと思います。これが変わらない限り、痛ましい交通事故は決してなくならないと思うのです。通勤に、買物に、そして楽しいドライブにと、車は、私たちの生活にはとても便利なものです。けれども、その運転には、刑事、行政、民事の三つの社会的責任が課せられることを自覚しなければなりません。

明日は我が身、ハンドルを握る私は被害者にも加害者にもなり得るのです。しかし、時々この気持ちを忘れ、開放的な気分になって運転することがあります。そんなとき、「気を付けなければ! 車は走る凶器」と改めて自分に言い聞かせ、気持ちを引き締めてハンドルに向かいます。一人一人のドライバーの、“絶対に事故を起こさない”の強い気持ちがなければ、交通事故は無くならないことを肝に銘じたいと思います。

私も、これからも優良のゴールドカードを汚さぬよう、安全運転に心がけたいと思います。ハンドルを握る時は、「急がない」「忘れない」「気を抜かない」を常に念頭において運転したいと思います。

通勤途上に見る穏やかな海のように、私も「思いやりの心」で、人に優しい運転を実践していこうと思っています。